

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	大会長講演
タイトル	生き方に向き合う在宅医療～高齢社会から多死社会へ～
日時	平成 25 年 3 月 30 日 14 : 30～15 : 00
会場	メインホール
演者	医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック 理事長 永井康徳
企画趣旨	<p>約 12 年前、私が「在宅医療に特化しなければできないことがある」と当時は愛媛県では初めてであった在宅専門クリニックを開業した頃、まだ在宅医療は一般的ではありませんでした。その後、時を経て、現在は松山市に在宅専門クリニックが 5 箇所も存在するようになり、その他にも在宅医療を熱心に行う在宅療養支援診療所が多数あり、松山市では在宅医療の選択肢に困ることはなくなりました。四国各県の県庁所在地でも在宅医療専門クリニックや在宅医療を熱心に行うクリニックが増えてきています。地域の在宅医療のレベルが上がればニーズもあがることを実感しています。ただ、愛媛県内でも松山市以外の地域では、在宅医療に取り組む医療機関は非常に少なく、在宅医療の選択肢すらないのが実情です。在宅医療は大都市から広がっていく傾向にあり、地方や僻地では、地域医療の疲弊と相まって、在宅医療過疎地となっています。今後の大都市での団塊世代の高齢化による医療クライシス、地方での地域医療の疲弊、救急医療の疲弊、医療費の高騰などを解決していくには在宅医療が鍵となるのではないかと考えています。国の政策も在宅医療に大きくシフトしている今、それぞれの分野で在宅医療をうまく活用していくことが、今後の超高齢社会の医療を展開する大きな鍵となるのではないかと考えています。</p> <p>次に、私達の社会は直面している大きな課題に在宅医療が果たさなければならない大きな役割があります。</p> <p>今、日本では、世界のどの国も経験したことの無いスピードで高齢化が進んでいます。出生者数より死亡者数が上回り、亡くなる人がかつてない数で増え続けていく多死社会を迎えるにあたり、医療はどう対応すべきなのでしょう？ 治す医療を追求して発展してきた日本の医療ですが、どんなに良い医療を行ったとしても老化や死は避けられません。にもかかわらず、最期まで治療し、闘い続けて亡くなることをすべての人が求めているのでしょうか？ 患者が避けられない死を目前にしたとき、残された時間をよりよく生きるために、私たち医療従事者は何をしてあげられるのか。そのことを患者本人と向き合って考える医療が求められていると思います。</p> <p>最近では、医師不足や地域医療の疲弊、高齢化、多死社会と旧来の外来や入院をベースとした医療だけでは対応しきれない様々な問題が浮き彫りにされてきています。治す医療を追求してきた日本の医療ですが、世界一の高齢化が進み、多死社会に突入する中、避けられない老化や死にしっかりと向き合い、治せなくても最期まで支える「本人の生き方に向き合う医療」が求められています。この「本人の生き方に向き合う医療」を在宅医療の分野から発信し、日本の社会保障制度を変えていき、日本の社会自体を変えていけるような取り組みをしていければと思っています。</p>